

社会福祉法人塩釜市社会福祉協議会
令和3年度第2回小規模多機能型居宅介護松ぼっくり運営推進会議
議事録

1. 日 時 令和3年9月28日（火曜日）
開会 午後5時30分～ 閉会 午後6時26分

2. 場 所 小規模多機能型居宅介護松ぼっくり

3. 出席者 遠藤春夫 三上長治 阿部幸 石村要
(委員総数6名中4名出席)

松ぼっくり
吉田所長

社会福祉協議会
山本次長 曾根課長

欠席者 永野やすえ 欠員1名

1.開 会

2.協 議 (要旨)

① 利用状況

- ・ 現在17名登録。女性12名、男性5名。
- ・ 要支援1 1名 要支援2 1名 要介護1 10名
要介護2 1名 要介護3 3名 要介護4 0名
要介護5 1名
- ・ 独り暮らしができる環境になく徐々に限界を感じ、施設移行まで3ヵ月間毎日「泊り」に応える。
- ・ 病院や施設ではなく、終末期を在宅で見守りたい娘さんの想いに応える。
- ・ 仕事を持つ娘さんが転倒不安のある母と暮らすために、7:30迎え、18:30送りでの「通い」に応える。
- ・ 高血圧もあるが病識がなく医療に繋がらず、家族や専門職の話しさえも聞き入れない一人暮らしの母に困り果てる息子さんに、宅配弁当持参「訪問」からの関係づくりからで応える。

(資料を詳しく説明した)

② 運営状況

・これまで様々な「困った」を小多機の機能と地域力（家族・隣人・町内会・民生委員・病院・シルバー人材センター・コンビニ・薬局・交番・ボランティア・地域包括ならびに関係機関等）と力を合わせ「よかった」に近づけてきた。今後も一人でも多くの期待に応え続けられるよう、①信頼される事業所であること、②職員体制の充実、③感染対策をはじめとするリスクマネジメント、を継続した目標として掲げて行きたいと思う。

具体的対策は次のとおり。

- ①個々のニーズに対し 100%応えたいが、現況体制を鑑み「できる事、できない事」を明確にし、柔軟性と創意工夫を持って、相互理解のもと利用いただく。また、今年度からの制度緩和で「登録者以外の泊り」を対応、8月に1名利用いただく。さらにパンフレットを刷新し周知 PRを図る。
- ②運転ができる、泊まれる職員の補強を行う。職員の勤務状況に偏りが生じている現状。また、2025 問題に対する次世代職員の補強と育成を検討する。
- ③これまでのコロナ感染予防対策の継続と抗原検査（任意）の導入と実施。また、昨今の想定外災害事象を視野に入れた情報収集と早めの判断でリスクマネジメントをする。さらに施設の老朽化と利用者の実態に合わせた環境整備を検討し改善を図って行く。

(資料を詳しく説明した)

(遠藤委員)

町内会では高齢者の独居が増えている。「お助け隊」という組織がゴミ出しや草刈りなどの支援を行っているが、プライバシーの問題もあり、どこまで踏み込んでいいのか難しい判断がある。隣近所も疎遠傾向にあるのが現状。できる範囲で支援を行うしかない。松ぼっくりの利用者に対する支援には頭が下がる。実績は伸び悩んでいるようだが、職員は頑張っているのを知っている。

(三上委員)

民生委員活動もコロナの影響で滞っている。高齢の長寿ハンカチ配布も、例年なら安否確認の声かけをしながら行っていたが、今年はポス

トに入れるだけになってしまった。配布対象者も元気なので減っていない。良いことではあるが……。認知症の方もいて、物盗られ妄想があるかもしれないので、玄関に入っての支援は行っていない。遠藤委員が言うとおりに、地域に独居高齢者が多くなった。そのような方は知らないうちに施設に入所する。そうすると家の草木が荒れ放題になってしまう。家族もたまに来るようだが、すぐ帰る。民生委員としての活動にも問題が多くなっている。特に世帯票、個人情報への把握がやりにくくなった。災害時等に必要と思われるが、あくまで協力を求める立場で強制ができない。

(吉田所長)

元々、塩釜には独居が多い。コロナ感染への恐れから、家族が在宅生活を止めて施設移行を決断する傾向があるように感じている。

(阿部委員)

地域に支えられて在宅生活を続けるというスタイルが家族には理解されていない。特に都会の家族にはある。逆に支援にクレームがきいてしまう場合がある。「こんな人が来る！」と本人は言うが、その方は地域の目がないと暮らせないのだ。例えば、夫に先立たれた女性の独居の方で、周りは心配して声をかけていた。それを遠方の家族が嫌がり、クレームがついた。実際、周りの目があるからその女性は生活が成り立っている。クレームを言うなら引き取ればいいのにそれはしない。包括センターの地域ケアシステムに関する宣伝不足かもしれない。介護保険サービスだけでは足りないのだ。地域の民生委員は情報をよく提供してくれて要援護者支援につながっており、感謝している。

(吉田所長)

地域の方の理解があって暮らせている松ぼっくり利用者がいる。話を良く聞いてあげている方々がいて、地域に恵まれていると感じる。「我がこと、丸ごと」と国では方針を掲げており、良いなと思う反面、現実には難しさもある。

次回 令和3年11月29日(月) 17:30～